

「リニア新幹線の間際を奈良に」との意見書が提案されたが、日本共産党議員団は地震発生時の危険性やトンネル工事で発生する残土の処理、水源枯渇の心配など、地元の自治体で起きている懸念を払拭できない工事となるため反対した。

(山田議員) このリニア新幹線なんですけれども、私も30年以上前、長男がまだ小さいときに、このリニアの研究をしているということを見て、地上より何センチか上を走っていくと、科学はすばらしいなと思ったことがあるんですよ。でも最近、このリニア新幹線のことをちょっと勉強させていただいたらとんでもないことだなと思いました。娘や孫に絶対乗ったらあかんで、これ開通しても、危ないからと言っているんですよ。これ9兆円もかけて、東京・大阪間を2045年に開業することを目指して、巨大事業ですね。最短67分で東京・大阪間を移動するということなんです。それが10センチぐらいのところを走っていくんですけれども、80%以上が何十メートルか地下を通るんですよ。それもこの地震国、この日本で、そんな何十メートル下を走っていて、もし地震があった場合、運転手も乗っていないわけですよ、全部自動で操縦ですから。一体どうやって救出するんですか、何十メートル地下のところでも事故があった場合、10センチのところを浮いて走っているわけですよ。ちょっと壁とかに当たったりしたら、もうそのまま大事故につながります。こんなものを67分で東京・大阪間、要るのでしょうか、果たして。どれだけの人が利用するのでしょうか。定年退職をして、いろんなところへ行ってみようとかいって、いろいろシルバーの方が景色を見ながら旅行というのはふえると思いますが、このモグラの高速の電車に乗って東京に行こうと私、誰も思わないと思います、富士山も見れないんですものね。ですから、本当に限られた方が乗るのに、こんな9兆円も要るのかなというふうに思うんです。そんなものが果たして今、もっともっとお金を使わなきゃならないところがあると思います。

それで東京・大阪間が移動できれば、一つの経済圏になり、奈良の財産である「ヒト・モノ・カネ」が大都市圏に移動するストロー現象というのが起きるんじゃないかということも懸念されています。

そういうことで、そういう地震国の日本の地下を掘るんですから、地下水の枯渇とか、騒音、振動、いろんなことが考えられます。そういう問題がたくさんあるのに、9兆円も使って、これを開発していく、そういうメリットはないと思います。それで反対をいたします。

(八尾議員) 先ほど山田議員が申し上げたことに加えて、実は南アルプスの自治体で、このリニアに対する反対の動きが顕著に広まっております。まず、静岡市でございます。ここは、市内11キロのトンネル工事で発生する残土360

万平方メートル、東京ドーム 3 個半分に及ぶそうですが、これが南アルプスの 7カ所に積まれると。残土を積むということは、崩壊の危機もあるわけですから、この間大阪でたしか違法の土地が、土が崩れたとかというようなことがありましたけれども、そういう対策が全くされておらんものですから (ここをよく聞いといてや)静岡市の自民党の市議団が自然保護が図れない工事なら認められないという提言書を田辺市長に提出をすると。田辺市長は、ここを南アルプス世界自然遺産登録推進協議会というのをつくりまして、新たな観光立県といいますかね、そういう取り組みをしておられるそうです。静岡県内の 7市 2町、藤枝市、焼津市、島田市、牧之原市、掛川市、菊川市、御前崎市、吉田町、川根本町、この 9つの自治体でも大井川の水量が 7市で、約 63 万人分の水利権量と同じで、毎秒 2 トンの水が減るのではないかと、こういう試算をしておられるようでございます。このため J R 東海には、大井川の流量が毎秒 2 トン減る根拠の提示や流量維持の対応策を求めるとの意見書を出しておられるわけがあります。また南木曾町でも大量に排出する残土の搬出などに関して不満を訴え、岐阜県可児市では、日本の陶芸の聖地とも言える久々利大萱地区というところがあるそうです。私ちょっと初めて見ましたですけれども。ここを走るときには、地下にしてほしいと、いろいろな要望が出ているようでございます。これらのことを十分に斟酌しないまま、最初からリニアモーターありきで、その上で奈良に駅をとというのは、余りに拙速ではないのかと。関係自治体と軋轢を生じないような進め方というのは最低限していただかないといかんと、こういうふうに思いますので、反対といたします。